

第 8 回自治推進委員会のまとめ
平成 23 年 8 月 8 日開催

1. 参画と協働の検証（A カテゴリー）について

- ・各委員が提出した A カテゴリーの検証シートの内容は、主な意見として次回までに事務局でまとめ、4 段階の検証結果については平均値を算出する。
印は検証シートによる意見

学務課「学校・地域連携推進経費」の検証

（検証結果平均；参画 B、協働 B）

- ・「脱ゆとり教育」の教育委員会と市民がどのように付き合っていくべきか考えて欲しい。【平橋委員】
- ・今後さらに制度を周知すること、必要な人材を探すことが重要。【吉田委員】
- ・学校によって、市民が学校に入りにくい。市民が入る領域を広げるべき。【上野委員長】
- ・「いじめ」についても、あらゆる事業の根底に考えてほしい。【中島洋一委員】
- ・教育委員会全体で、市民参加型の授業に取り組んで欲しい。【西村委員】
P T A、自治会、校区自治協議会等と連携し、参画の機会を増やすべき。【岩下委員】

地域の企業との連携を強化してはどうか。工場見学や商業実習なども考えてはどうか。【岩下委員】

地域の人から、学校へ提案する方法をつくるのであればよいのではないかな。
【長塩委員】

地域で、「子どもたちの夢」を実現していくような大人（キラリ人）の情報を集める方法の工夫をしてはどうか。【中島久美子委員】

人材バンクなどの情報を共有して推進していくことが必要。【中島久美子委員】

学校支援ボランティアの登録者研修が必要ではないか。【西村委員】

シティ FM は周知不足ではないか。市政だより等の活用をしてはどうか。【平橋委員】

学校内にボランティアをコーディネートする人材が必要ではないか。【松崎委員】

学校側からの情報発信の手段、情報収集が必要である。【松崎委員】

地域・家庭・学校が集まって役割を話し合う場を年に 3 回は持ち、効果的な教育支援活動を実践するべき。【吉田委員】

学校評議員の働く場をもっと活用するべきである。【吉田委員】

地域づくり推進課「まちづくりサポーター養成・活用経費」の検証

(検証結果平均；参画 B、協働 C)

- ・まちづくり担当者が地域の各種団体の会合等に出席することは、情報共有、参画の点から良いこと。まちづくり交流室の職員数が少ない。【岩下委員】
 - ・学校支援ボランティアと連携するなど、行政間の連携を図り、人材を幅広く活用すべき。【松崎委員】
 - ・地域毎の様々なメニューに、共通の理念が希薄になっている。【中島洋一委員】
 - ・地域活動の広報を積極的にするなど、地域で頑張っている人を地域で認めてもらえる支援をして欲しい。【平橋委員】
 - ・サポーターの養成が最終目的になっているようなので、まちづくりの活性化にもっと繋げて欲しい。【長塩委員】
 - ・校区自治協議会だけではなく、大学や高校、専門学校、事業者など他の機関にも情報を提供すると良いのではないか。【長塩委員】
 - ・世代をつなぐキーマンを見つけ、ネットワークを作って欲しい。【中島久美子委員】
 - ・地域の人材を育成し、活動できる場を提供するという意識を持って欲しい。【上野委員長】
 - ・地域リーダーを支える人材を、まちづくり交流室のネットワークでサポートして欲しい。【上野委員長】
- 人材の育成において、生涯学習課との連携も必要ではないか。【上野委員長】
- そもそも、まちづくりのイメージを共有することが必要である。【中島久美子委員】
- まちづくりサポーターに対し、自治基本条例の研修が必要である。【西村委員】
- まちづくり担当職員がもっと地域の会合、行事に参加し、適切な助言をして欲しい。【吉田委員】

河川課「都市基盤河川維持補修経費」の検証

(検証結果平均；参画 B、協働 B)

- ・ふれあい美化ボランティアの経済効果を示して欲しい。【西村委員】
- ・ボランティアの取組を自治基本条例の観点から、再評価して欲しい。【西村委員】
- ・川を地域資源として生かしていくような事業展開をして欲しい。【上野委員長】
- ・年 6 回の協定だけではなく、NPO などと協力して、単発でやれるような仕組みを作って欲しい。【松崎委員】

取組の価値について、市民にコンセンサスが広く形成されるようもっていく必要がある。【上野委員長】

積極的な広報活動をして欲しい。【岩下委員】

過去の流れで終止せず、拡大して欲しい。【岩下委員】

長嶺おはよう会などのコミュニティを他部署にも繋げてはどうか。【長塩委員】

実施回数等に無理はないか、実施において住民の意見を聞いて余裕を持たせるべきである。【西村委員】

ボランティア活動の素晴らしさをマスコミ等で広報してはどうか。【吉田委員】

2. 市政全般（Cカテゴリー）の抽出方法について

- ・資料6の「抽出の考え方」に基づき、重点的取り組み58事業の中から、月末までに委員の皆様が関心のある事業を検討し、第9回会議で出し合い決定する。【上野委員長】
- ・前回、要望のあった「防災に関する啓発経費」、「災害時要援護者支援経費」などの防災関係を1つとし、残りの2事業を抽出する。【上野委員長】
- ・第6章のリサイクル問題が、多くの人に関係するのでよいのではないかと。【岩下委員】
- ・情報公開条例やパブリックコメント、審議会などの全体に関わる情報の共有の問題について取り上げて欲しい。【西村委員】
- ・企画の段階からの参画や協働について取り上げて欲しい。【西村委員】
- ・職員に対する自治基本条例の研修について、訓令を見直すべきである。【西村委員】

3. その他

- ・西村委員から配布のあった区民会議に関する要望等は、次回までに各委員が確認し、その取り扱い等について委員会で協議する。【上野委員長】

【参考】

検証結果 A ～ D の集計

事業		A	B	C	D	平均
学務課「学校・地域連携推進経費」	参画	1人	6人	1人	0人	B
	協働	0人	7人	1人	0人	B
地域づくり推進課「まちづくりサポーター養成・活用経費」	参画	1人	4人	3人	0人	B
	協働	0人	2人	6人	0人	C
河川課「都市基盤河川維持補修経費」	参画	3人	1人	2人	1人	B
	協働	1人	5人	1人	1人	B

(A = 6 点、 B = 4 点、 C = 2 点、 D = 0 点として集計し、平均値は 5 点以上を A、3 ～ 5 点を B、 1 ～ 3 点を C、 1 点未満を D とする)